

令和7年10月27日

令和7年度文化遺産国際協力コンソーシアムシンポジウム 「紛争からの復興と文化遺産」を開催します

文化庁は、文化遺産国際協力コンソーシアムとの共催により、令和7年度文化遺産国際協力コンソーシアムシンポジウム「紛争からの復興と文化遺産」を下記のとおり開催しますので、お知らせします。

1. 概要

近年、紛争による被害が文化遺産にも及び、その甚大な影響が地域社会だけでなく国際的にも深刻な課題となっています。文化遺産は国や地域の歴史を象徴する存在であり、人道支援と同様にその保護と復興は国際社会における共通の責務と言えます。

本シンポジウムでは、国の復興や社会の再建における重要なカギとして文化復興の意義を改めて強調することを通じ、復興支援のパッケージの中に有形・無形の文化遺産保護分野の支援が不可欠な要素として位置づけられるべきとの認識を醸成することを目的とします。一方で、紛争後も政治的に対立する勢力が存在するとき、完全に中立な支援は現実には困難であり、守るべき文化遺産の選択自体も普遍的ではありません。紛争が世界各地で続き、国際社会のメカニズムが流動化する今日の状況下における文化遺産国際協力のあり方について考える機会といたします

日 時：令和7年11月30日（日）13:00～17:00（開場:12:30～）

会 場：東京大学 弥生講堂 一条ホール（東京都文京区弥生1-1-1）

プログラム：別紙チラシを参照

定 員：250名（入場無料、事前申込制、先着順）

主 催：文化庁、文化遺産国際協力コンソーシアム

後 援：外務省、国際協力機構、国際交流基金、日本イコモス国内委員会

2. 申込方法

下記申込フォームよりお申込みください。＜申込締切：11月21日（金）＞

<https://reg31.smp.ne.jp/regist/is?SMPFORM=mgk-margoj-5961f0619ce489e8d3190bd8ad249c42>

申込フォーム 二次元コードはこちら



3. 取材について

会場での取材を希望される報道関係者は、必要事項（別添）をご記入の上、11月21日（金）17時までに文化遺産国際協力コンソーシアム事務局（下記 E-mail 又は Fax）へご連絡ください。

（E-mail：consortium_tobunken@nich.go.jp）

（Fax：03－3823－4027）

＜担当＞ 文化庁文化資源活用課文化遺産国際協力室
室長補佐：荻原（内線 5737）
文化財国際協力係：水嶋、入江（内線 5097）
電話：03－5253－4111（代表）

令和 年 月 日

独立行政法人国立文化財機構
東京文化財研究所長 殿

報道機関等名称 _____
取材等責任者： _____
連絡先住所 _____
電話番号 _____

取 材 等 申 請 書

下記により取材等を申請しますので、許可願います。

記

取材等の目的	
取材等概要	取材（インタビュー）・ 撮影 ・ その他（ ）
取材等 希望日時	令和 年 月 日（ ） 時 分 から 時 分
取材等を受ける 本研究所職員	
発行・放送予定日等	
取材担当者 氏名・連絡先	

※取材による記事又は撮影した画像、動画等がある場合は、掲載された冊子又は記事のコピー、放映された映像を記録した DVD 等の記憶媒体を 1 部（枚）提出すること。

2025年 **11月30日** [日] 13:00—17:00 開場 12:30

紛争からの復興と 文化遺産

文化遺産国際協力コンソーシアム
令和7年度シンポジウム



紛争前後のスーク（シリア・アレppo） ©Dosseman/CC BY-SA 4.0 (top) ©Hussam.shibli/CC BY-SA 4.0 (bottom)

東京大学 弥生講堂 一条ホール

入場無料 | 定員250名 | オンライン同時配信 (YouTube)

主催 | 文化遺産国際協力コンソーシアム、文化庁 後援 | 外務省、国際協力機構、国際交流基金、日本イコモス国内委員会



文化遺産 復興と 紛争からの

文化遺産国際協力コンソーシアム
令和7年度シンポジウム

近年、紛争による被害が文化遺産にも及び、その甚大な影響が地域社会だけでなく国際的にも深刻な課題となっています。文化遺産は国や地域の歴史を象徴する存在であり、人道支援と同様にその保護と復興は国際社会における共通の責務と言えます。本シンポジウムでは、国の復興や社会の再建における重要なカギとして文化復興の意義を改めて強調することを通じ、復興支援のパッケージの中に有形・無形の文化遺産保護分野の支援が不可欠な要素として位置づけられるべきとの認識を醸成することを目的とします。一方で、紛争後も政治的に対立する勢力が存在するとき、完全に中立な支援は現実には困難であり、守るべき文化遺産の選択自体も普遍的ではありません。紛争が世界各地で続き、国際社会のメカニズムが流動化する今日の状況下における文化遺産国際協力のあり方について考える機会といたします。

プログラム

13:00-13:05 開会挨拶

關雄二

文化遺産国際協力コンソーシアム 会長
国立民族学博物館 館長

13:05-13:15 趣旨説明

山内和也

文化遺産国際協力コンソーシアム 西アジア分科会長
帝京大学文化財研究所 所長

13:15-13:45 基調講演

「紛争からの復興と文化遺産：
国際社会の役割とは」

星野俊也

国連システム合同監査団 監査官
大阪大学 名誉教授／元国連日本政府代表部大使



スタリ・モスト橋（ボスニア・ヘルツェゴビナ）

13:45-14:15 講演1

「日本の中東外交と文化遺産の保護」

松本太

一橋大学 国際・公共政策大学院 教授
前駐イラク大使／元駐シリア臨時代理大使



国士館ハウス（イラク）

休憩（15分）

14:30-15:00 講演2

「カンボジアにおける
遺跡保存と地域発展」

下田一太

文化遺産国際協力コンソーシアム
東南アジア・南アジア分科会委員
筑波大学芸術系 教授



サンボー・プレイ・クック遺跡（カンボジア）

15:00-15:30 講演3

「パルミラ遺跡の破壊を契機とする
シリア人人材育成と
遺跡復興に向けた活動」

西藤清秀

文化遺産国際協力コンソーシアム 運営委員
奈良県立橿原考古学研究所 技術アドバイザー



パルミラ遺跡（シリア）

休憩（15分）

15:45-16:55 パネルディスカッション

モデレーター | 清岡央 読売新聞東京本社論説委員

コメンテーター | 關雄二

パネリスト | 上記登壇者

16:55-17:00 閉会挨拶

岡田保良

文化遺産国際協力コンソーシアム 副会長
日本イコモス国内委員会 委員長

日時

2025年11月30日（日）
13:00-17:00（12:30開場）

申込方法

対面・オンライン参加共に、
コンソーシアムWEBサイト
の申込フォームよりお申込み
ください。



申込フォーム

申込締切日

11月21日（金）

会場

東京大学 弥生講堂 一条ホール
東京都文京区弥生1-1-1 東京大学農学部内

アクセス

地下鉄

東京メトロ 南北線「東大前」駅下車 徒歩1分

東京メトロ 千代田線「根津」駅下車 徒歩8分

都バス

御茶ノ水駅（JR中央線、総武線）より茶51 駒込駅南口行

または東43 荒川土手行「東大農学部前」

下車徒歩1分



お問い合わせ

文化遺産国際協力コンソーシアム事務局

（独）国立文化財機構 東京文化財研究所文化遺産国際協力センター内

〒110-8713 東京都台東区上野公園13-43

E-mail consortium_tobunken@nich.go.jp TEL 03-3823-4841 FAX 03-3823-4027

X (旧Twitter) https://x.com/jcic_heritage

Facebook <https://www.facebook.com/jcicheritage/>

You Tube <https://www.youtube.com/@jcic-heritage6907>